

別紙様式

平成28年7月6日

運輸審議会

会長 鷹箸 有宇壽 殿

## 公 述 申 込 書

運輸審議会一般規則第35条の規定により、下記のとおり公述申込みを致します。

### 記

1 公述しようとする事案

事案番号 平28第4001号

事案の種類 軌道運送高度化実施計画の認定

事案の申請者 宇都宮市、芳賀町及び宇都宮ライトレール株式会社

2 公述しようとする者

(ふりがな) (うつのみやししやうてんがいれんめい うつのみやおりおんどおりしやうてんがいしんこうくみあい りじちやう ながしま としお)

氏名 宇都宮市商店街連盟 (宇都宮オリオン通り商店街振興組合理事長) 長島 俊夫

(郵便番号) 〒320-0806

住所 栃木県宇都宮市中央3-1-4 (事務所)

職名 副会長

年令 67歳

3 事案に対する賛否

賛成

4 利害関係を説明する事項

5 自宅、勤務先等連絡先電話番号

勤務先 (有)堺屋商店 028-633-2073



長島 俊夫

宇都宮市商店街連盟副会長（宇都宮オリオン通り商店街振興組合理事長）

## LRT整備をJR宇都宮駅西側までの早期整備を求める

### 【主旨】

LRT整備に関して、今回の申請計画であるJR宇都宮駅東側への整備はもとより、LRTが中心市街地の活性化に効果的であるとの観点から、宇都宮市内の商店街・商業関係者を代表して、JR宇都宮駅西側への延伸（最短でも宇都宮最大の観光地である大谷地区まで）を決定し、早期の整備を求めるものである。

### 【現状】

宇都宮市の産業は、JR宇都宮駅東側の大型工業団地に所在する企業を中心とする製造業と、JR宇都宮駅西側に位置する中心市街地で展開する中小事業者等による商業、餃子等の食の全国ブランドを展開する観光業等を中心に栄えているまちである。さらには、かつて二荒山神社を中心とした門前町や宇都宮城を中心とした城下町としての歴史のあるまちでもある。しかしながら、現在は、JR宇都宮駅を境として、東西間が車でしか結ばれておらず、その交流が弱い状況にある。

隣接市町を含む東側と西側が、現在の南北の鉄道交通軸と新たなLRT東西軸が連続して結ばれることにより、もの、人、情報などが活発に行きかい、また、LRTと接続するバス等の複数の手段で市内・地域が結ばれ、ネットワーク化されることで活気と持続力あるまちが成立する。

現在の中心市街地においては、中心市街地を訪れる1日の人の通行量は、昭和61年の19万人をピークに現在はその4割程度にまで減少し、訪れる1人当たりの消費額もここ10年余で約5割減少、滞在時間も短時間化している状況になり、回遊性がなくなり、衝動買いも少なくなっている傾向にある。

中心市街地の活性化に向けては、これまで道路整備や景観（ファサード）整備、大型イベントができる広場の創出、内装費等に対する空き店舗補助や若年者夫婦・子育て世帯に対する家賃補助、二荒山神社や城址公園の祭事等の実施、宮祭り・ジャパンカップクリテリウム・餃子祭り等の大型イベント等の開催、宇都宮商工会議所や中心市街地活性化協議会と連携した個店の魅力アップ事業（街ゼミ等）をはじめ多くのソフト事業等を展開しているが、それらの効果が一時的なものに止まっており、持続的な活気、賑わいの成果が表れていない状況にある。

特に、中心市街地の来街者の交通手段として、ここ10年余で、市外・県外からの餃子を目的にした観光客等により、JRが2ポイント増加した一方、自動車が8ポイント増加、バスが2ポイント減少、徒歩が4ポイント増加するなど中心市街地が広域の中心地から地

域の中心地化している傾向にある。自動車での来街者が増加しているため、空き店舗や空き家が駐車場へと転用等が増加し、しかも小規模かつ点在化している。このことは、中心市街地のまちづくりに大きな支障となっている。

一方、LRTのJ R宇都宮駅西側延伸を期待する中、大通り沿いやJ R宇都宮駅西口における市街地再開発事業が進んでおり、現在、1か所が整備中、3か所が検討中であり、LRTが整備されれば再開発に一層のはずみがつくとともに、便利で活気ある中心市街地の復活が期待される場所である。

#### 【LRT整備の必要性和中心市街地の活性化】

人口減少社会、少子高齢化社会において宇都宮市、中心市街地が持続的に成長していくためには、上述の課題を克服し、ネットワーク型コンパクトシティの都市拠点として、定住人口の増加、交流人口の増加、民間活力の誘発を図り、中心市街地の永続的な活性化を必要とする。

そのためには、特に、中心市街地を自動車中心の構造から公共交通中心の構造へと転換し、東西南北の交通ネットワークの要、結節点としての中心市街地に変えていかなければならない。その実現のためには、交通の基幹軸となるLRTについて、J R宇都宮駅東側ばかりでなくJ R宇都宮駅西側までの延伸、整備が不可欠である。LRTに関する先進都市の富山市でもLRTを中心市街地に整備したことにより中心市街地の活性化に効果（通行量、民間投資、市街地環境等）があったことは実証されている。

その上で、私たちは、J R宇都宮駅西側への単なる延伸だけでなく、中心市街地の活性化の実効性を高めるためには、①LRT整備と連動したバス路線の面的な再編・拡充を行い、LRTとバスとの連携による利便性の高い公共交通ネットワークを構築すること、②LRTによりJ R宇都宮駅と東武宇都宮駅との結節を図り、将来的には東武宇都宮線にLRTを乗り入れること、③LRTの停車場、トランジットセンターの機能的整備、利用料金の低減化等を図ること、④平成32年の東京オリンピック、平成34年の栃木国体に備えて早期のスケジュールを定めることなどが必要である。

いずれにしても、LRTの導入、整備は、宇都宮市が都市間競争に勝ち残るためには絶対に必要であり、地方創生のモデル都市として全国に誇れるまちとなっていかなければならないと考える。